

婦人子とも

フレイブル會

第七號

第十六卷



第十六卷第七號目次

文部省保育講習會

更に加へて

自由主義の誤解

モンテツソリー教育主義とフレーベル教育主義

園兒の繪畫觀察の様式

ハスタロツチとフレーベルとの弱點(ヘイワード氏)

水田氏「お話の研究」を讀みて

雜錄

河野清丸

クライン

森小糸

紹介子

倉橋生

本誌定價

一冊 郵稅共金拾參錢 六冊前金郵稅共七拾貳錢
拾二冊同金壹圓四拾四錢 郵券代用 一割増

購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に送本致します。(振替口座東京一七二六六番)

本會宛御用務

本會宛諸般の御用務は左の如く願ひます

庶務及會計に關する御用務は東京女子高等師範學校附屬幼稚園内フレーベル會事務所宛

本誌編輯の御用務(寄稿、廣告等)は東京府下代々木山谷一二四倉橋惣三宛

大正五年七月八日印刷納本
大正五年七月八日發行

編輯兼發行者 倉橋惣三
東京府豐多摩郡代々幡村大字代々木山谷一二四

印刷者 岡功
東京市本所區番場町四番地

印刷所 凸版印刷株式會社本所分工場
東京市本所區番場町四番地

發行所 フレーベル會
東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

婦人と子ども

大正五年七月五日
第十六卷第七號

文部省の保育講習會

幼稚園長及幼稚園保姆に對する文部省主催の保育講習會は本年八月一日より十日間を以て東京に開かるゝことゝなつた。文部省が幼稚園保育者のために講習を開くといふことは、我國に於ては素より始めてのことであり、又吾人の知る限りに於ては、政府が保姆の爲の講習を開くといふことが世界に於て始めてのことではあるまいかと思ふ。斯の教育の爲に慶賀此の上ないことであるのみならず、我國の教育界そのものゝ爲に、一盛事と謂はざるを得ない。

明治九年我國に創めて幼稚園が開かれて以來、其の間多くの熱心と知識と貢獻との擧げて數ふべきもの必ずしも少しとしない。殊に、畏くも憲

昭皇太后陛下、時の皇后陛下として斯の教育の上に深き御興味を頒たせ給ひ、或は東京女子高等師範學校附屬幼稚園（現時の名稱に従ふ）に、或は學習院女學部附屬幼稚園（同前）に、屢々行啓の榮を賜ひ、親しく斯の教育を御覽せられ給ひしことは、我國幼稚園教育史を飾る、最も光榮ある數頁たらざるを得ない。又斯教育の古老先輩の事業にして永く吾人の記憶に存し、斯教育の爲に深く感謝すべきもの極めて多い。しかも、斯の教育の一般の狀況としては、其の發達の頗る遅々たり、其の研究の極めて茫漠たるの感を遺憾ながら拒むことは出来ないのである。斯の教育の必要を感ずること深く、斯の教育に所期すること大なれば大なる程

此の感は益々強からざるを得ないのである。

然るに近年に至つて、斯界の爲に吾人の氣を新たにするもの耳を續いで起るものがある。關西保育界に於ける組織的研究心の興起、東京保育界の新らしき激勵、ついで昨夏東京に開かれたる全國幼稚園關係者大會、而して、今夏將に開かれんとする此の文部省保育講習會。實に手をかざして東天の白きを見るの感を禁じ得ないのである。

地球は自ら廻轉す。此の新らしき朝を迎ふるは決して人力の効ではない。しかし、吾人は此の新らしき朝を新らしき朝として喜び迎へることを忘れてはならない。又此の新らしき勢に従ふて益々之れを進展せしめ、充實せしむるの勞を怠つてはならない。吾人は叫ぶ。日は出でたり速かに醒めよと。而して更に言ふ。醒めたらば働けと。實に此の新らしき朝に勇躍喜悅して努力せよと

昨夏全國幼稚園關係者大會の開かるゝや、吾人は斯界の爲め非常の喜びを感じた。而して其の喜

びは、此の大會が將來出席者に向つて何物を與へ得るかではなくて、何を産むべきかに關してゐた。今夏の文部省保育講習會が、必ずしも昨夏の大會の所産なりといふのではないが、少くも此の産出の一助因となつたものと考へてもよからふと思ふ。即ち昨夏の大會が將來に於て約束せる幾多の産物の中の、最も著しい第一産物であると思へても誤りではなからふと思ふ。而して昨夏の大會に對して文部當局が與へられたる多大の好意と熱心との、決して一時的他動的のものにあらざりことを、此の講習會の新開催に於て立證せらるゝものとして、今更に深き感謝を新らしうせざるを得ないのである。

國家が幼稚園教育の必要を認定して居ることは言を俟たない。しかも近來に於ては、小學校令内の一片の保育令の他、國家は殆んど特に此の方面に意を拂ふことなきの觀があつた。しかし、今や國家は文部大臣の名を以て、斯の教育の改善進歩

の爲めに、特に地方長官をして講習員を推選せしめ、十日間の講習會を開かんとして居るのである。斯の教育に従事し關係するものは、茲に新たに其の興味と熱心とに對する國家的背景を保證せられ

更に加へて

文部省は今年に於て特に保育講習會を開催し、我國保育界の内容的補充の爲の新らしき計畫は方に實行せられんとして居る。吾人斯界の爲めに誠に之れを喜び感謝するのである。而して吾人は此の喜びと感謝に促されて、尙ほ進んで幾多の望蜀の感を抑へ得ないのである。喜悅は次の喜悅を求め、満足は次の満足を求めるのが心理の自然とすれば、吾人の此の欲望も強ち勝手の我儘ではあるまい。

それは他なし、保姆養成の問題と、保姆待遇の問題との解決である。之れは古い問題で始終新しい問題である。昔から何人も心づき、幾度も主

たともいふべきである。吾人は我國幼稚園教育界の最も大いなるよろこびの一つとして、此の第一回文部省保育講習會を迎えるものである。

張せられて、とう／＼昨年迄ついで、扱て改めて全國幼稚園關係者大會に於て、討議せられ、決議せられ、答申せられ、建議せられたる問題である。

元來幼稚園保姆に關する現下の問題は、二つに大別することが出来る。一つは形式的問題で、保姆資格問題、保姆待遇問題、等が之れに屬する。

次は内容的問題で、保姆養成問題、保姆學力補充問題等が之れに含まれる。而して此の形式内容兩問題は、實に相關聯し、相交互して離れ難いものであるが、若し、實行上いづれをか先きにしなければならぬとすれば、吾人は内容問題を先きとす

る。又内容問題の中で、保姆養成と學力補充と、
いづれを先きにすべきかといへば、差當つての策
として先づ後者を撰ぶ。文部省當局が今夏の保育
講習會開催も、蓋し恐らくは此の意に出でたもの
であらうか。いづれにしても、吾人は此の現在の
保姆の學力補充の必要を急務とする點に於て、文
部省當局の舉に全然同意するものである。

しかし、吾人は更に加へて希望せざるを得ない。
保姆の學力補充の更に溯つて保姆養成問題の實現
に至らんことを。更に相伴ふて保姆資格問題、保
姆待遇問題の解決と實現とに至らんことを。之れ
當然の順序にして、又當然の結果である。更に進
んで言へば、問題は二となり四となるも、つまり
は一個の問題である。

幼稚園關係者の苦き經驗は、いつも之等の問題
に就き建議して、いつも結果を見得ないことであ
つた。昨年の全國幼稚園關係者大會に於て、建議
の一部(保姆養成問題)は答申の形となつた。即ち

文部省は幼稚園問題に對する從來の受動的位置か
ら發動的位置に轉じたのである。そこに全國幼稚
園關係者の至大の望は囑せられ、其の實現が今度
こそはと期待せられて居るのである。今夏の講習
會に於て、問題の一端は實行となつて、文部省か
ら實現せられたのである。昔の當てのない期待、
手かゝりのない要求とは大に其の趣を殊にして來
た譯である。吾人の要求が更に長驅して問題全部
の統一的解決に急ぐは、決して無理な次第では無
いのである。

保育講習會は今夏を第一回として、將來も亦引
續き益々有効に開催せらるゝことと信ずる。而し
て現在の我幼稚園教育者は、不斷の向上心と努力
とを以て、大に內的に充實せられてゆくことと信ずる。
しかも、年々新らしき若き保姆は補充せられなけ
ればならない。又新らしい幼稚園は年を追ふて増
設せられなければならない。それには新らしき保
姆が任用せられねばならない。斯くて保姆養成は

必ずしも將來の爲の準備には限らないのである。且つ、斯くの如く高く養成せられたる保姆の資格と待遇とは自然の結果として高められざるを得ない。高められたる資格と待遇とは、高く養成せられたる人々が容易に應じ得る。それ等の人々の増し加ふることによつて、我國幼稚園の知識水準

自由主義の誤解

近來自由主義に就きて大分論ぜられるやうになつた。けれども之は誤解を招き易いからして今日は其の眞髓を談さうと思ふ。

學術的に謂へば自由主義の根柢は、『凡て生物は自己發展能力を有す』といふ點に在る。生物の最も低級なるものは勿論『アメーバ』であるが之より進化して吾人人類の如き最も高級なるものとなる。故に吾人の祖先は實に『アメーバ』である。

は自ら高められて来る。其の高められたる水準に向つて、現在の保姆は自ら己を高めずには居られない。

吾人は文部保育講習會を迎ふるの喜びと共に、更に加へて、之等のことを當然に希望せざらんとするも得ない。

日本女子大學校附屬
小學校主事文學士

河野 清 丸

さて『アメーバ』が段々進化發展して纖毛虫鞭毛虫の如き滴虫類より放散動物・軟體動物の如き無脊椎動物となるのである。加之近時バツテン教授は『オストラコダーム』といふ動物の化石を發見し、之を以て（蜘蛛類と有脊椎動物との中間にありて兩者の連續をなすものとして居る。斯くして蛇、蜥蜴、鰐、鳥類、獸類、人間といふやうに連綿として進化し來た事は争ふべからざる事實とな

るのである。果して然らば生物は自力によりて進化したのであらうか若くは他力によつてゐあらうか。

詳言すれば『アメーバ』の如きものに教師、生徒の區別があつて教育の力によつて進化したのであらうか。或は外界の境遇が進化を促したのであらうかといふ問題になるのであるが詳しくは數時間を要する故こゝには結論のみを談して見よう。

一種の進化論者は滴虫類の細胞が光線といふ物理的刺激を受けて、眼點なるものが出來、之が發達して今日の眼となつたのである。自分に自覺して眼となしたのではないと主張する。之は純機械觀を以て生物進化を説明せんとするアイマールの説である。(拙著『自動教育法の原理と實際』参照)

機關の用不用説。是亦生物の進化は外界の境遇に依るものであるとなし、院鳥が水に入りて足は膜は特に發達し鶴鷺等の如く脚や頸の長くなるのは水中に棲息した境遇が然らしめたのであつて、

ダーウインの説に似てをります。併し境遇は生物進化の唯一の原因ではない凡て一結果には數因がある、雨降れば勿論地は固るが、併し地の固まる原因は降雨計りではない。人が踏んだか、重き物を轉ばしたか、と謂ふが如く數因ある、

或は又蓄音機の發聲するのも撥條が解けるといふことが唯一原因ではなく、音を吹き込むだといふことが重大な原因である。故に原因の意義には種々あり即ち近因のみならず必ず遠因がある。故に生物の進化するのは畢竟生物本來の自己發展能力を有せる上に境遇が加はつて此處に初めて成し遂げるのである。陸鳥が水中に入り足を多く使用したるにより水掻が發達し、頸が長くなり、嘴が長くなつたのは使用により血液滋養分が多く來つて發達したものであるが、开は單に近因即ち縁に過ぎないので、其の遠因は生物内部の努力、即ち自我發展能力によるのである。要するに生物の進化には數因ありて外界境遇は單に其の縁に止り、

其の眞因は却て内的要素にありといふのである。

今日の進化論者は眞理の一面のみを觀て他面を觀ざるやうである。自己發展力は下等生物に在りては微少なれども、進化するに従ひ其の發展を大にするのは遺傳の力によるのである。吾人はアメンバ時代よりの發展力を積集するにより、人類に至りては多大の自己發展力を有する。

兒童は自然に自己發展能力を有つてをりますが、他方成人は又教育的能力を有つて居る。茲に於て自動教育と放任教育との區別が出來ます。放任教育とは兒童の自己發展力に一任して成人の教育的能力を使用せぬ。反之干涉束縛主義は成人の教育的能力のみにより、兒童の自己發展能力を度外視する。

自由主義は放任教育ではない。教師が自己の教育能力を利用しつゝ、兒童の自己發展能力を助長せしめるのであります。而して此の教育的能力は、高等動物にのみあつて、下等動物にはない。蛇の

如きは卵を生むには、地面を一寸計掘り、此處に生み、軽く土を被せる、之れが日溫によりて孵化し、立派な蛇となりて獨立をなす。故に親蛇には養育能力すらない。況や智德體の教育に於てをやである。

されど鳥類には養育能力あり、教育的能力も少しあり、巢立ちをする時に翔び方を教ふ、故に低度ながら教育的動作は行はれる。然るに人類に至りては此の教育能力も亦極度に達する。吾人は高度の教育的能力を有つてをるにもかゝはらず、之等を度外視し放任してをるのは、眞に惜むべきことであります。

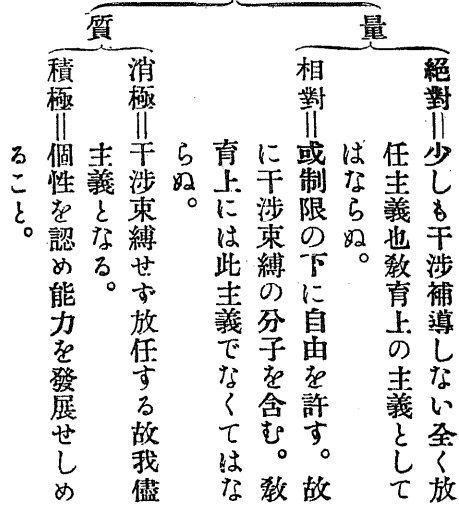
尤も現今の教育法は教育的能力の使用法を誤つて居ります、親切過ぎる教育は、即ち干涉教育で躓けば起してやる、何か書かんとすれば筆を執らしめる等、兒童の工夫を妨げ、或は無理に教案に束縛することは、最もよろしくない。而して凡て干涉は間接的にすべきであります。結果を良くせ

んがために教師が手を加ふるは直接的で良くありません。今日は結果主義ではなく道行主義を貴びます。太陽は大に人を助けるものであるが然も間接的である。時には日射病などを起すことがあるけれども、太陽ほど慈悲の洪大無邊なるはありません。日本では天照大神にたぐへ、獨逸では Die Götter といつて女性としてをります。之は慈悲の洪大なことを型つたのでありませう。又水は太陽が蒸發せしめて水蒸氣となり、雨となり川となり米を搗き、電燈を點する等之皆源は太陽の力であります。此の太陽の徳の洪大なることを忘れてはなりません。石炭にしても、石炭期の植物が、太陽熱を吸収して、水底に埋りて炭化して石炭となるので、あるから、石炭のエネルギーは畢竟太陽のエネルギーである。教育者は太陽の如く、教育能力を間接に利用して指導しなければなりません。將來は此の教育的能力を間接に如何に利用應用するかといふことを研究しなければならぬ。畢竟太

陽主義でなくてはなりません。日出而作。日入而息。鑿井而飲。畊田而食。帝力何有於我哉とは堯帝の政治の善かりしを謂つたので、民をして直接に恩恵を感せしめずして、自然に従ひ間接的に民を益したので、堯帝の徳が洪大無邊なる所以であります。自動教育法を實行せんとするには教師は太陽が生物を助ける様に間接的にせねばならないからして中々の難事である。さればモンテッソーリ女史の主義は自動教育法であるけれども、教師養成を主にしてをります。

更に他の例を以て云へば親は子を助けてをりますが、子はそれ程に恩を感じませぬ。隣の伯母さんにお菓子を買つたのは、非常に喜ぶ、これは直接であるからであります。兎に角兒童が自己發展力を有することが自由主義の根柢をなすのであるから、兒童の自己發展を間接的に助長せねばならぬ。以上自由主義の根本原理を略述したからして次には自由主義其物を簡單に説明しようと思ふ。

自由主義



我が校では自由主義に基いて自動主義教育法を施して居ると聞き手品が輕業の如き放れ業をして居るが如くに思ふ人もある様ですが決して然うではありません。右述べ來りました兒童本具の自己發展能力を啓發せしめるのでありますから、一時間や二時間の參觀では分りませぬ。少くとも一週間以上參觀なさることを申して置きます。前にも述べた通り自由主義であるからとて我儘主義たれ

といふではありません。自己を抑制することが最も肝要であります。武士は食はねど高楊子と謂つた如に、又安達達原の三段目の袖萩を家より出す時父は心に泣きながら親子の縁を斷つた様に、實に我が武士道は自制の要素を有つてをります。日本人は抑制の人であります。克己自制は國民性の特徴であります。

以上の自由主義に對して反駁を試みる人がありまして、幾分にも束縛ある以上は、自由主義とは謂へずと、之は主義といふ詞の意義を考へない者のいふことです。例へば作業主義アルバイトシユイゼと云つても、作業を主とするといふ迄であつて頭は少しも使用せずとは謂はぬ。學習主義レルンシユイゼと雖も、手足を使用することを少しもしないとは謂ふのではない。畢竟何々主義といつても其の主義の内容には幾分かの異分子が交らないとは謂へぬ。

教育上に自由主義を高調したモンテッソーリ女史も兒童を自由自在勝手氣儘に振舞はしめるもの

ではない、それ自身上品ならぬこと、假へば机上を歩み。鼻をいぢる等、のこと及び他人の妨害となることは斷々乎として禁じなければならぬと云つて居る。

抑も人の性は善惡混合で、元來善のみと思ふのは誤つてゐる。オイケンは良我が惡我と戰ひ精神的生活を營むを以て終局の目的として居る。自我には大我と小我とが必ずあるものであつてスフィックスの謎もこゝから起るのです。

以上の如に小我大我とある故心ず小我を抑制しなければならぬ。我儘主義を通してはならぬ。然らば自由主義の特色は何處に在るかといへば、つまり兒供の發達を助ける様な行動は、濫に之を禁遏せぬのみならず、却て之を獎勵することである。今兒どもが匍匐出しますと膳部に向つて進み例へば茶碗をいぢる時には之によつて種々な感覺を得ます。即ち溫度、重量、硬軟等、感覺的知識の門戸であります。斯の如く知識を得んとしてをりま

すのに、親は之を叱ります。之は兒童の自由發展を妨害するものであります。化學者が實驗室に於けると同じであります。誕生頃になると物を擲げて喜ぶ、之は眼、手、精神の集注力を要する故、非常なる練習となる、手を動かせば三十の筋肉が動く。

成人が ステッキを振りながら歩行すれば八十の筋肉が動くのですから、物を抛けると筋肉の練習になる。勿論時計、九谷焼等を投げさせては大變ですから代用法により毬なりお手玉なりと取り換へればよいのである。又少し長じて塗抹時代になると机に向ひ鉛筆を執て何物にても頓着なく塗るのであります。此際に於ても代用品を用ひ二三度するうちに、本は塗るものでないことを知ります。斯の如く物を投げる力、塗抹する力を利用することが肝要であります。然るに或人は之を行はしめると習慣になると謂はるれど、之を行ひ盡せば後には興味は起らぬ故研究もせぬやうになる。

客の前にも大人しくなる。障子など破るは暫時

なるはありませぬ。

にて研究時代を過ぐれば興味を感せぬやうになる

自己の發展を助けるもの。

それを研究時代と知らずして妨げなどする時は此

行爲の範圍

他人の幸福を増すもの、これは代

の障子破りは何時迄も止めるものではないのであ

善

行爲の動機(動機の善なるもの。

行爲の結果(結果の善なるもの。

ります。然して之等は少しも禁せずとも善きかと

動機は善なりとも結果惡しきことあり。又結果

いふに、こは一種の好奇心にて惡動機によらざる

はよくとも動機の惡しきことあり。此の結果の惡

故禁せずともよろし、されど年漸く長じて小我出

しきは代用法により救済することが出来る。無意

で惡動機よりなすことは禁じなければならぬので

識的に行ふことは、神の手を離れたるばかりの兒

あります。ルーソーは人間の生れたるときは一と

には一として不善なるはありませぬ。人の迷惑を

之は確に一面の眞理を認めることが出来ます。兒

關はす行ふは、利己主義の如くなれども、之は將

童が幼なければ稚ない程無邪氣で罪なき物故干涉

來發展せむとしてなすこと故、立派な利己であり

束縛せぬがよい。ルーソーの語を研究するに。抑

ます。英のエドモンドホームスは林檎の未熟の時

も善惡と謂ふ語は人間の行爲を評價する語である

が、善といふうちにも自分自身を發展せしめる行

は酸味強く苦い、けれども時がくれば甘くなるの

爲と、他人の幸福を完成し助長する行爲とありま

す。一才位の兒の一舉一動は悉く自己發展の助

と同じく、兒童も惡しきことも構はずなし居れど

けとならざるはありませぬ。皆善で一として不善

他日味を有つやうになるのであります。兒童幼き

程自己發展を計るもので、年長するに従ひ惡動機

によりて惡事をすることがあります、此處に到つては絶對命令でなくて、相對命令により自己の判斷力により自由に服従せしめるがよろしい。軍隊に於ては上官の命令は理由の説明を求めずして絶對に服従する如くなれども其實は相對命令であります。若し理由を正さば上官は『汝は國家の滅亡を欲するや否や』と答ふ、茲に於て兵士は『欲せず』を以てするのみ、然らば國家危急存亡の秋は命令に服従すべきなりと、自己の判斷力により自由の服従たらしむるのであります。世の中には絶對命令なるものはありませぬ。

積極自由最後の目的は創作主義ならむことを欲するのであります。終局は獨立、獨行、發明、發見といふ創作主義の教育法を將來大に研究すべきであります。自由究畢の目的は實に此の點に存するのである。

詳細は拙著『自動教育法の原理と實際』を参照されたい。而して發明發見は其の道行を知らしめ

ることを要する。單に結果のみを授けても効は少い。假へばのX光線はハレントゲン教授が如何にして研究せらしか、ラヂウムはX光線と如何なる關係が有るか。如何なる方法によりて發見したるかといふが如きに及ぼすことが肝要であります。光線の速度は一秒時間に一八六〇〇〇〇哩を走ると、之は如何にして發見したるかといふに、ガリレオの巖上に二人の人を立たせ一方に光を上げたるを認めたるとき直ちに一方に於て光を上げしめて其差なかりしといへどこれは失敗に終りました。

次には木星に衛星が附いてそれが地球の軌道に最も近き時と最も遠きときと、十六分幾ら即ち大概千秒かゝる、軌道は一八六〇〇〇〇なる故一秒に幾哩かとは直ちに知ることが出来ました。

要するに自由主義は獨立創作をなさしむることにして、之を養ふには先人の發見せる徑路を授けるにあります。終局の目的は此處に到達せしめな

ければなりません。自由主義は放任、我儘主義でなく積極主義でなくてはなりません。即ち發明創

作主義なることを重ねて述べておきます。(終)
(フレーベル會例會講演大意、文責在記者)

モンテッソーリの教育主義とフレーベルの教育主義と

ルイス・クライン

如何なる教育組織と雖も善いことを悉く含んで居るといふことは恐らくあり得ないことでありませう。現今諸學校に於て行はれて居る教育組織は多くの人々の教育意見を打つて一丸とした折衷的なものであります。某の教育組織が哲學的に極めて深い根據を有し、又啓發的なものであると致しましたも、それは、その組織のすべての細部^{ディテール}が、他のすべてのものを排除してまでも、容け入れらるべきであるといふ理由とはならないのであります。

との如く、その兒童に對する態度の異つた二つの教育組織は一見融合することが不可能であるが如くに見受けられるのでありますが而かも尙兩者の細部^{ディテール}の或るものは容易く互ひに容れ合ふことが出來、互ひに便宜を享受し合ふことが出来るであらうと存じます。

モンテッソーリの教育主義とフレーベルの教育主義とは多くの同じ原理の上に置かれてあります、兩者は共に、

す。

教育は兒童の中に力を創造することはと出來な

フレーベル教育主義とモンテッソーリ教育主義

い、教育はたゞ兒童の中に潜在して居る力を喚

起するものである。

といふ公理^{アキシオム}に出發して居ります。兒童は自己の中に貯へられたる生命力から花のやうに成長して行かなければなりません。花は日光と滋養分とを持たなければなりません、而してそれが許された範圍に於て十分美しい花となることが出来るやうに放任せられなければなりません。兒童もこれと同じやうに適當な周圍を持つてその中で發達しなければならぬのであります。これはフレーベルの言ふ所であります。しかしモンテソリー博士はこれを更に一層強く言つて居ります。

この二人の教育家は又、兒童は自身でその周圍を研究し、瓶に水を注ぎ入れるやうに諸事實を受取らされるのでなく、自身で諸事實を實見する權利を持つものであるといふことを申して居ります。乍併モンテソリー主義を奉ずる人々には、フレーベル主義を奉ずる人々がこの原理を堅實に墨守して居ると思へないのであります、フレーベル

の幼稚園に於ては、兒童は理論的には自身で經驗し、自身の結論を作るに任せてありますけれども實際は保姆が兒童に代つてこの仕事を行つてやるのであります。保姆は仕事の量と種類とを正確に決定するばかりでなく、兒童がその仕事に費すべき時間を正確に決定するのであります。それですから兒童は事實に於ては自由にその周圍を研究することは出来ないであります。

モンテソリーもフレーベルも活動的であるべき兒童の權利を擁護して居ります。それでそのに幼稚園の保姆は一般に活動の時間と量とを指圖いたします。

之を要するにモンテソリー博士はフレーベルに比して兒童の個人的相違を、より多く認めて居り集團的發達よりも個人的發達を念として働いて居るのであります。

幼稚園に於ては保姆は「さア皆さん立ちませうさア皆さん坐りませう。さア皆さん積木をしませ

う。さア皆さん紙を剪りませう。さア皆さんお話を聴きませう」と言ひます。モンテソリーの學校では斯ういふことは一つも言ひません。兒童は自分のしたいことを何でもしてかまはないのであります。兒童は何かよろこんでして居る間は決して他人の邪魔するやうなことはありません。兒童が學校といふ小さい世界に於てその仕事に努めて居るのは大人が大きな世界に於てその仕事に努めて居るのと少しも異らないのであります。

フレーベルもモンテソリーも^{センストレーニング}感覺練習の重要であることは共に等しく認めて居るのであります。がモンテソリーの教育組織はフレーベルのそれに比して一層直接的であります。モンテソリーの教育組織は各の感覺を別々に而して科學的に訓練します。この目的のために特に工夫せられた^{ペンドリング、マ}操作器具によつて兒童は色、觸感、音、形、大さ、重量等の細かい區別を漸次認知するやうになりますのであります。

フレーベルの教育組織はモンテソリーのそれに比して稍々非直接的であります、兒童は遊戲やお話を通して偶然的にその感覺練習を受けるに過ぎないのであります。

まことにモンテソリー博士の全體の組織は極度に科學的であり、而して心理學的であります。同様の科學的方法がモンテソリーの習字及び算術の教授法に適用せられて居ります。多くの幼稚園と違つてモンテソリーの學校は小學校の手工、讀書、習字、算術、圖畫を習得するための直接的な準備であります。

幼稚園の兒童が唱歌を習ひ、お話の仕方を學びつゝある間にモンテソリーの學校の兒童は文字を學び、數を覺えつゝあるのであります、而してこれは兒童が無理に強いられて教へられるのではないのであります。モンテソリーの學校の兒童は幼稚園の兒童が積木で汽車を拵へると同じ程度の興味を以つて文字を書くのであります。

フレーベルの幼稚園に於ては保母は兒童の注意力を保持するために絶えず緊張して居ります。モンテソリーの學校に於ては兒童は漸々に自身で集中^{コンセントレート}することを學びます、それ故教師はなるべく後に退いて居るのであります。モンテソリーの學校に於て用ゐらるゝ器具は兒童に何事かを教ふるやうに工夫せられて居ります。兒童がその正しい使用法を覚え込んで了つた後は教師は後へ退いてその器具が兒童に教へるところのものを兒童が発見するに任せるのであります。

さて幼稚園とモンテソリーの學校との最も著しい相違は前者に於て兒童が衆團に於てはたらし、後者に於て兒童がその仕事を個人的に行ふといふ事實に横はつて居ります。最も明かな相違はモンテソリーは兒童の自由を急進的に信奉して行くといふ點に存して居るのであります。(文責在記者)

○主客問答

主『我國の幼稚園の現状について、どうお考へになりますか』

客『さうですなあ』

主『改良を要すべき點が澤山ありませうなあ』

客『さようですなあ』

主『どうぞ、お考へをお腹藏なくお話し下さい。第一、先づ如何なる點の改良を先きにしたらよろしいでせうか。設備でせうか』

客『それも無駄ではありますまい』

主『私共の學力でせうか』

客『それも不必要ではありますまい』

主『貴下のお考へで、一番根本的とお思ひになることは何で御座います』

客『餘り失禮になりますから申し上げますまい』

主『いいえ決してそんなことは御座いません。どうぞお聞かせ下さいまし』

客『では申し上げますが、詰り、あなた方が幼稚園の教育にもつと本氣におなりにならなくてはなりません。』

園児繪畫觀察の様式

—京都市保育研究會調査—

概括者 森 小 糸

一、はしがき

俗に病は、四百四病とか申しまして種々ありますが、夫れを見別けて適當な治療をしますのは誰が致しますのですか。申迄もなくお醫者様のお役目です、其醫者は手加減でのみ、人の身體を診察するかのようなのですが、決して／＼左様ではなく、確な寄り所があるので御座います。さて身體の方面の事は醫者に任せれば宜敷が、幼兒精神的方面の醫者は、母なり保母なりの役目であります。併し幼兒の精神の方面と申しましても、中々擴く、個々の精神的作用も幾つも／＼あります。其精神作用を盡く一時に調査することは到底私共のなし

得ることではないと存じて居りますが。去りとして、幼兒保育を日々仕事としてゐる以上は、少々なり共調査して見たいと思ひまして、

今年の二月頃から大學の檜崎先生に御願いたしまして其調査の仕方を教へて戴き、又實際の指導を受けています。そして先づ、調査の比較的容易な幼兒の繪畫觀察の様式を探ねることにいたしました。

幼稚園時代の子供が繪を好んで見る事は、皆様方の御承知の事ですが、然らば好んで見て居ります所の繪に就て、ドンな見方を、致して居りますか。又幼兒の着眼點はどんな所に有ますか。夫れ等を明白に心得て居りませぬと、幼兒の精神を適

當に誘導することは出来ませぬ、故に幼児の觀察を指導する前に、まづ其觀察の様式を知りたいといふのが、この研究に取り係りました、動機で御座います。繪畫により子供の觀察の様式を知る、實驗を初めて試みられし人は、ステルン氏で、同氏は七歳未満の子供は、個物の觀察であると申して居られますそうです『七歳以下の子供は觀察物中の比較的立ち離れたるもの、又は人のみを觀察し、或は實際には孤立せざるも、觀察の際之を全體より分け離し、個々に統覺す』と申されています相です、日本の幼児は、果してこの結果と、同一でしやうか。

二、調査方法

觀察させました繪畫は、便宜上ドクトル三田啓氏の學齡兒童の智力検査法中の左の圖を用ひました。検査に用ひました。(検査に用ひた圖には彩色が施してあり、又大きさも此挿圖の二倍であ

ります。

其調査方法は、至極簡單で始め幼児に能く繪を見せて置き、『之は何の繪ですか』唯之だけで、其他少しも助言を用ひません、而して、幼児の申た事を直にカードに記載致し、其内容の單一から複雑に進む程度を標準として、保姆が分類したものであります。調査にかゝりました、日時



は、大正五年二月初めより三月末日に至る間、毎日午前十時より十一時卅分迄。此調査を行つた幼稚園は、京都市の楊梅、開智、豊園、日彰、生祥、柳池、小川、乾隆の八園の保姆です。

其間に調査致しました人數は、六歳男百三十九

人、六歳女百四十九人、五歳男百人、五歳女六十五人、四歳男十三人、四歳女九人であります。

三、結果

幼児が繪畫を観察いたします時、其見方は色々です。一二の例を舉げて見ますれば、前記の繪を示した場合は、幼児は、思ひ／＼の心に浮んだ事を答へます。(『お祖さん兄さん遊んで』はる『子供と喧嘩してゐる硝子が寫つて居る』『この學校にゆくと鳥が居ると言ふてはる』など種々の答へを得ます。此答は幼児の觀察の着眼點を語つて居るのです、是等を概括分類して、見まして、次の十三様式になります。今其様式の下に例を添へて置きます。

幼児繪畫觀察を概括せし十三様式

- 一、不明(發表不能)……わからん、知らん、無言、
- 二、景色又は家具……雪が積つてゐる
- 三、命名人 人、形、…氷江り

四、個々の物の命名…靴

五、命名動作……人が柿掴んでゐる

六、人、動作衣具景色…此子供さんが毬を持つてこ

ゝやぶらはつた

七、二人の動作……あつちに行くと思つたら向

ふにお行きやす

八、二人の動作景色家具…靴あげて、袴はいて、羽

織着て、下駄穿いて、足袋はいて、障子がある、窓がある

九、三人の動作……ケツタ(隠れん坊)してはる、

あつち／＼と言ふてはる

十、三人の動作景色…雪が降てる雪達磨拵へては

る、雪がふつて學校に行かはると、お祖父さんが止て

はる

十一、三人の動作家具…黄色の帽子をきてる人、

雪の丸拵へてはる、兄さんが靴さげて、お父さんが向

ふへ行くのやと言ふてはる
十二、三人の動作景色及家具…雪が降る朝ね—此
人と此人と雪投げして硝子

コイ」の所で、雪をかため
てほらはつた、硝子が破れ
た、雪が積つてる

に當てはつたかい過てはる

總括 各幼稚園の所在は、上京、中京、下京にあり

十三、人と物との眞の關係…雪が降て學校へ行け

と、言ふてはるのに行かは

て幼児の家庭の情況が異りますから、自然繪畫觀
察にも多少の違ひは、御座いますれど、總括して、

らん、障子が有る後の「カ

各様式と人數との關係を次の表で示します。

觀察の檜式と幼兒の分配

第一									
幼稚園									
園名									
年齢									
觀察様式									
不 明(發表不能)									
景色又ハ家庭									
命 名(人形)									
個々ノ物ノ命名									
命 名ト動作									
人ノ動作(衣 景色)									
二人ノ動作									
二人ノ動作景色衣 具									
三	二	四	一	一	一	一	一	一	一
10.0	六、七	一三、三	三、三	一〇〇	三三、三	三三、三	三三、三	三三、三	三三、三
二	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一三、三	七、一	一	七、一	一	一	一	一	一	一
二	九	八	二	二	二	二	二	二	二
七、四	三、三	二六、六	七、四	七、四	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四	三	二	一	一	一	一	一	一	一
三、三	二五、〇	一六、六	八、三	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三、六	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	四	一	一	一	一	一	一	一	一
七、四	一四、八	一	一	一	一	一	一	一	一
一四	一九	一四	三	四	一	一	一	一	一
一〇、一	一三、七	一〇、一	二、三	二、九	一	一	一	一	一
一〇、一	一〇、一	一〇、一	一〇、一	一〇、一	一〇、一	一〇、一	一〇、一	一〇、一	一〇、一

表 二 第

式樣の觀察觀畫繪の兒幼	觀察樣式	年輪	實		合計比
			實	%	
不 明(發表不能)	三	六歲女	三	100	100
景色又ハ家屋	三	同	三	100	100
命 名(人形)	三	同	三	100	100
個々ノ物ノ命名	二	同	二	100	100
命名ト動作	二	同	二	100	100
人ノ動作(衣具)	一	同	一	100	100
二人ノ動作	一	同	一	100	100
二人ノ動作景色衣具	一	同	一	100	100
三人ノ動作	一	同	一	100	100
三人ノ動作景色	一	同	一	100	100
三人ノ動作家具	一	同	一	100	100
三人ノ動作景色及家具	一	同	一	100	100

表

察のの様式					
三人ノ動作	三人ノ動作景色	三人ノ動作家具	三人ノ動作景色及家具	人ト物トノ眞ノ關係	
二	三	一	一	一	
六、七	一〇〇		三、三	三、三	
五	二	二	一	一	
三、七	二三、三	二三、三		七一	
一		三	三		
三、七			二、一	一	
				一	
			一〇〇		
		一			
		八、三	八、三		
一〇	五	七	四	一	
三五、七	一七八	二五〇	一四、三	三、六	
四	三	四	九	一	
一四、八	一一、一	一四、八	三三、三	三七	
二三	一三	一四	一九	四	
一五、八	九、四	一〇、二	一三、七	二、九	

觀察の様式と幼児の分配

式樣の觀察觀畫繪の兒幼	觀察樣式		實	五歲男	豐園
	年	齡			
不 明(發表不能)	二	四	八	二	豐園
景色又ハ家屋	八	三	二	一	生祥
命々ノ物ノ命名	一	三	一	一	日彰
個々ノ物ノ命名	一	三	一	一	柳池
命名ト動作	一	三	一	一	小川
人ノ動作(衣具景色)	一	三	一	一	乾隆
二人ノ動作	一	三	一	一	合計比
二人ノ動作景色衣具	一	三	一	一	
三人ノ動作	一	三	一	一	
三人ノ動作景色	一	三	一	一	
三人ノ動作家具	一	三	一	一	
三人ノ動作景色及家具	一	三	一	一	
人ト物トノ眞ノ關係	一	三	一	一	

[illegible]

觀察と幼兒の分配表

第

園 年	名 齡	觀察ノ構式	幼 不 明(發表不能)	實		生 祥
				一 三、三	三 %	
園 年	名 齡	觀察ノ構式	幼 不 明(發表不能)	實		小 川
				一 三、三	三 %	
園 年	名 齡	觀察ノ構式	幼 不 明(發表不能)	實		乾 隆
				一 三、三	三 %	
園 年	名 齡	觀察ノ構式	幼 不 明(發表不能)	實		合 計 比
				一 三、三	三 %	
園 年	名 齡	觀察ノ構式	幼 不 明(發表不能)	實		生 祥
				一 三、三	三 %	
園 年	名 齡	觀察ノ構式	幼 不 明(發表不能)	實		小 川
				一 三、三	三 %	
園 年	名 齡	觀察ノ構式	幼 不 明(發表不能)	實		乾 隆
				一 三、三	三 %	
園 年	名 齡	觀察ノ構式	幼 不 明(發表不能)	實		合 計 比
				一 三、三	三 %	

觀察の様式と幼兒と分配

[illegible]

表 五

一段は様式の配列、二段實とあるは、幼兒數を言ふ、三段目の數は、一園の幼兒總數にて、其行の幼兒數を割り出したる百分比なり。合計比は、各

これ等の表を見ますと『六歳の男では三人の動作一五、八。二人の動作一、三七。三人の動作景色及家具一三、七。』が最も多く六歳の女五歳の男と多少百分比に相違はありますが、大體全く六歳と同様であります。五歳の女では『一人の動作、二人の動作、三人の動作家具。』が多いので此時代に

—(278)—

は、男女の區別が餘り有りません。そして此種の調査は、成るべく多人數が宜敷いのであります。

今回は、以上の人數より得られませんが、兎に角此繪畫觀察調査の結果としましては、六歳五歳とも男女通じて『三人の動作、二人の動作、三人の動作景色及家具』といふ觀察の様式が正常な

机邊より

○ペスタロッチとフレーベルとの弱點

——ハイワード氏『ペスタロッチ及フレーベルの教育觀』より——

紹 介 子

ペスタロッチもフレーベルも教育の目的といふことに就てはハツキリとは述べて居りません。この點に於てこの二教育家は遙かにヘルバルトに劣つて居るやうであります。

ヘルバルトは教育家の仕事に整齊と調和とを與

る見方の様です。かゝる見方の心理學上の解釋は甚だ大切に又興味あるものと思ひますが、それは、私共の力の外ですから遺憾ながら結果のみ述べて置きます。(尙ほ此種の調査を當市内各幼稚園より追々發表せられる筈であります。)

ふべき唯一の目標として人格構成といふことを擧げて居ります。ヘルバルトはその著『普通教育學』の中で「教育の唯一の目的は一つ概念——即ち徳性に概括せらる」と明かに述べて居ります。この目的から演繹せられて居るのがヘルバルトの教

育論なのであります。ヘルバルトはこの立場に在るが爲めに自然といふものに力負けをして居りません。人は自然を判断しなければならぬ、盲目的に自然に従つてはならぬ、人はその高き目的のために自然を利用しなければならぬ、屢々非倫理的であるところの自然の方法に括りつけられて了つてはならぬと斯うヘルバルトは言ふのであります。

ベスタロツチも教育の目的に關してヘルバルトの立場に似て居る節がないでもありません、しかしベスタロツチはこれを明瞭に言ひ現しては居りません。教育の目的に關する彼の意見の最もよく現れて居ると思はれるのは「ゲルトロードはその兒童を如何に教育せしか」の終りの部分であります。彼はこゝで徳と智とを磨くのが教育の目的であるといふやうに言つて居りますが又「生活の間らしさ」が教育家の目標であるといふやうにも言つて居ります、さうかと思ふと又内的充足が目的であるとも言つて居ります。この點に關しては

非常に不分明なのであります。

教育の目的は人間の本質の力と機能とを調和的に發達せさるといふより外にはあり得ないとベスタロツチは一八〇一年に言ひました。けれども一七八二年には彼は「自己の生活狀態に於て生活し幸福であること及び社會の有用なる一員となることとが人の定運であり且又教育の目的である」と言つて居ります。又教育のすべての目的のエッセンスは「兒童の注意力を定着させ、判斷力を鋭敏に活動せしめ、兒童の心情を高尙ならしむること」であるとも言つて居ります。

ベスタロツチの解説者はベスタロツチの教育の目的は徳性だあつたと言ひますが、以上に抽出した彼のまろ／＼な教育目的の中にボンヤリ現れて居る外には彼が斯ういふことを言つたことを私は知りません。

調和的發達といふやうなことは教育改革家が何時も先づ持ち出して來る意見でありましてこれだ

けではまだハッキリした具體的な考は分らないのであります。

教育の目的に關する意見の明瞭といふことを言ひますとフレーベルも亦遺憾ながら未だしといふ點があるのであります。フレーベルの教育の目的も矢張朦朧として居ります、私はたゞフレーベルの教育の目的の中にルソーの幻影イリュージョンを發見するばかりであります。彼は次のやうなことを言つて居ります。

人は己の定運と天職とを充たすべきである、それが己自身の中に潜んで居る神的性質の再現（若しくは外的の活動的表現）である。

教育は人をして己自身及び己自身の内にあるものを明瞭ならしめ、自然と調和し神と結ばしめるものである。

「人間教育」の始めの部分で彼は又次のやうなことを言つて居ります。

教育の目的は至純な、信仰心厚き、完全な、從

つて神聖な生活を造り出すことである。

けれども少し先の方へ讀んで行きますと彼は教育の目的は自由と自己決定とを以て人の生活を通して人の中に既存して居る神を實現することであると云つて居りますから前の敘述は殆んど不必要なものとなるのであります。

以上の如き神秘主義からは宜しく脱出すべきであります、フレーベルの萬有神教もかなり荷厄介なものであります。ウオーグウオーズとフレーベルは極端な萬有神論者であります。

私達は外觀の援助無しに神性を發揮すべく放任せられた多くの兒童の經驗に徴して、甚しく「命令的な、決定的な、障壁的な」教育の必要を思ふのであります。一方に於て私達はフレーベルが斯る方法の危険を私達に警告して、量り知られぬ貢獻を爲してくれたことを認めるのでありますけれども。

フレーベルは、教育は最初から「受動的、注目

的、保護的」でなければならぬと言ひます。私達は答へます「若し私達が教育の目的が何であるべきかを知つて居りさへしたならば教育は如何にもさうあるべきであります。私達はその目的を思ひつゝ常に「注目的」であるでありませう。又「保護的」であるでありませう、時によつては「受動的」でもあるでありませう。乍併、私達は、フレイベル自身からしてさうであつた如く、屢々命令的、決定的、障碍的であらざるを得ないやうに感ずるでありませう」

兎に角、つまるところ、私達は生徒をいゝ人にしたいて望んで居るのであります。私達は生徒が生れながらにして神性を持つてゐたか何うかを論議することを避けます。或る人は生徒は生れながらにして神性を持つと考へ、他の人は人間の子どもの生れ附きの特性の主なものの中性的であるか惡魔的であるかであると固く信じて居るのであります。

私達は「力と機能の調和的發達」に就て話すことを避けます、何故ならば或種の力と機能とは抑へられ、妨げられ、發達を阻害せられる必要があるからであります。

私達は又「定運」や「天職」や「自己實現」を話すことを避けます、何故ならば斯る言葉は身體的に精神的に將又道徳的に飢渴に瀕して居る我々の兒童の多くに適用する時に、緩弛^{ブルーズ}的に見え又誇張的に見えます。私達は日常生活に用ゐられる普通語を用ゐることを好みます。而して私達の力の許す範圍に於て私達の生徒に善い人とすることを望んで居ると言へば足りるのであります。

教育の目的は「人格構成」であります。

この立場からすべての教育家を眺めかへてみますと、私達はあらゆる種類の教育法則が此目的に標達する道路を指示して居ることを發見します。それらの多くは先づ最初フレイベルによつて作られました。而して其他のものは進んだ階段の

教育に關するものが主でありまして、それらはヘルバルトによつて作られました。

私達は英雄的ヒロイックな歴史的敘述が人格構成に與つて力あることを知りました——乃で私達はそれらを私達の企劃の中に加へました。私達は地理や自然研究の興味が惡に近寄ることを防ぐことを知りました——乃で私達はその興味を喚起することに努めて居ります。一般の興味の起源といふものを調べてみますに、私達はそれが（ヘルバルトとの言ふ如く）統覺に依つてゐて、それがために形式に走りすぎる學課によつては失はしめられるといふこと、又時としてそれはフレーベルの言ふ如く生れながらの外部運動、構成的衝動に依るといふことを知りまゝ、

いにして私達は漸次ベスタロッツやフヘルのよりもつとハツキリとした外廓を持つ私達の教育計畫を造り出して行きます、而して一面に於て卑しい商業的功利主義に陷ることを避

けると共に、他面に於て鹿爪らしい精神的な朦昧主義に沈潜することを避けるのであります。

ベスタロッツは教育の倫理的の包含インフリケーションを認めて居りました。彼の解説者に依りますと、彼は惡は仁愛や法律や説教では救はれるものではないと思つたのであります。教育こそ唯一の効果的な救治であると彼は思つたのであります。けれども彼は兒童の本質の中に萌芽として潜んで居る善の力を活動せしめ、兒童をして絶えず働かしむるところの、兒童の日常生活に基礎を置いた教育が必要であると考へたのであります。

フレーベルも同じ位の程度で述べて居ります。彼は創造力の教養を粗笨として不道德とを壓服するために、否寧ろ、それらの發達を妨遏するために最も必要であると考へました。

フレーベルもベスタロッツもこゝまで行つて居ながら何故教育の目的は「人格の構成」にあるといふことを公言することによつてこの問題を單化し

明化しないのでありませう。

ペスタロッチの組織に於ける他の缺點を考察する便利のために次ぎに短い準備的の論議を掲げます。

圖畫、書方、粘土細工等は表出の形であります、算術や文法は心の體操の形であります、この二者は心が心的滋養物——觀念若しくは心像——を以て十分に充たされて居ることを豫想するのであります。他の言葉で言へば教育を容受する方の側が等閑視されてはならぬのであります。

今日の人々は多く「兒童をして自ら思考せしむる」と言つて居ります、しかし「心的努力を喚起する」といふことは心的滋養物を與ふべく相當の準備が爲されてゐないかぎりには有害となるのでありませう。お腹の空いて居る力士にめざましい競技を見せてくれと望むことは出来ません、それと同じやうに私達は心の空虚な兒童に表出的な線によつて獨自の心的努力を示すやうになぞと望むの

は亂暴であります。

ヘルバルト學派の人々は大體斯る調子でペスタロッチの形式的な、體操的な學課を攻撃するのであります。

心的滋養物は心的練習と同様に必要でありますまつたくそれは、より基本的に必要なであります何故ならば心的練習は心的滋養物を豫想して居るからであります。

ヘルバルト學派に従へば興味も亦既に積まれた觀念の貯藏の存在に依るのであります、コメニウス以前の學課の主なる過誤の一つはそれが全然形式的であるがために心的機敏に資するところがあつても心を養ふことが出来なかつたといふ點に存するのであります。

然らば心は養はれねばなりません、けれどもその當適な食物としては何がいゝでありませうか、それには二つあります、——自然に關する觀念と人に關する觀念とがこれであります。

ベスタロッチは自然研究及それに類することを怠りませんでした（尤もこれに就てはベスタロッチは主として言語教育の根柢としてそれを行ふたのであると言つて彼を非難する批評家もあるやうであります）が必ずしもさうではないやうであります）けれども彼は他の大部門たるリアリスチックな研究——歴史及び文學に於ける人の研究——に對して何を爲したかと私達が尋ねるとき、その回答は決して満足なものではないのであります。

ベスタロッチはヒューマニズムの教育の爲めに何事をも爲しませんでした。歴史は彼の種々の原理に關聯して時折記さるゝに過ぎません、文學に至つては一度も記されたことがないと私は信じます。

彼はマシウ・アーノルドの如く、教育の與へることの出来る最も價值ある賜物は世界に於て嘗つて考へられたこと、言はれたことの最上のものと知り得ることであるといふことを知りませんでした

彼はエドワード・スリンダの如く、先生の仕事の一つ（恐らく最も重要な）は仙^{フェアリーランド}人郷を開くことであるといふことを知りませんでした。彼はローリエ博士の如く、「若し吾人が兒童に眞善美を兼ねた教育を施さうと思ふならば賢人聖者の言辭に親しましめるより外はない、文學の熟讀を通じてのみ人は過去に於て苦辛の結果を得られたものを所有することが出来、その種族中の最大にして最高なる者の友たることを得るのである」といふことを知りませんでした。

兒童の興味を惹く文學に對する彼の折にふれての感想は是等の考とは全然うらはらなものでありました。ベスタロッチ程の人が斯る謬見を固執してゐたとは殆んど信ぜられぬ位であります。

斯る方面をベスタロッチが全然閑却したといふのは全くルソーの影響であります、それにルネサンス時代の書籍病に對する彼の反抗も大いに手傳つてゐたのであります。ベスタロッチは四十年間本

を讀んだことがないと言つて誇つて居りますが、彼も亦幼年時代には種々のものを讀まされて空想的資料を與へられたのであります。ベスタロツチはその組織の中に文學と歴史とを取り入れた居ないといふことは大なる瑕瑾であります。心的滋養物の必要を認めなかつたことが彼をしてこの誤解に陥らしめた所以であります。

近代の教育家は二三の例外を除くの外は皆大概「教養」と「力」との要求を平衡ならしむることに於て失敗しました。最高の教育的偉大の究竟のテストは恐らくこの平衡の力でありませう。ベスタロツチは決してこの平衡の力を持つて居りませんでした。獨逸に於てヘルバルトとフレーベル、スコットランドに於てローリイ、尚その他少數の極めて少數の——人々がこれを持つて居ります。

現代の改革家といへども多くは現代の問題が教養及び人格に關する事柄を體操及び力に關する事柄と調和させることであるといふことを夢想だと

して居りません。

ベスタロツチは此點に於て未だしであると私は今述べました、それは次ぎに示す彼の説いて居る教育家の任務といふ様なものを讀めば分ります。

兒童は開豁であるために反省するやうに教へられなければならない、狐疑的にならないために用心深くなければならぬ、乞食とならないために勤勉でなければならぬ、信用を得るために眞摯でなければならぬ、自ら安立して居られるために合理的でなければならぬ、之を要するにいづれの方面にまれ、兒童は何者かに成り得るやうに育てられなければならない。

ベスタロツチは兒童は高き情緒の感動（モウヴメント）を感じるやうに教へられなければならないと言つたことがあります。兒童は何物かでないければならぬ、兒童は役に立つものでなければならぬ、兒童は力を持たなければならぬ——ベスタロツチの言ふのはたゞこれだけであります。

フレーベルはベスタロツチよりも賢くあります彼の組織に於ては話、古傳——従つて歴史及び文學——は大切に取扱はれて居ります。

フレーベル學派の人々はベスタロツチに關して尙批評を加へて居ります、即ちベスタロツチの効績を感謝を以て認めると共に彼等は兒童が觀照を行ひ得るに至る以前に感覺や感情が發動するではないかと言つて居るのであります。まつたく其の通り、ベスタロツチは近世の「小學校の父」でありますけれども、フレーベルに蒙らざるべき名譽たる「幼兒學校の父」ではありません。この批評は肯綮に中つて居ります、けれどもあまり重要なものではありません。ベスタロツチは何でも彼でも出來るといふわけには行きませんから。

ベスタロツチの他の缺點、否可能的の缺點は兒童をして心的生活を築かしめんとする、賞讀すべき彼の希望に於て彼はあまり解剖に走りすぎる嫌ひがあることであります。尤も斯る缺點はフレー

ベルにもあつたのでありますがベスタロツチは殊に文學や歴史を斥けて算術を重んじたのであります。

ベスタロツチは兒童の觀照の手始めには兒童をして自己の身體に注目せしめるのがいいと考へました、これは「近いところから遠いところへ」といふ原理を應用したのでありませうが少し考へ物であります、何故ならば兒童は自己の身體よりも外界に注目するのが自然であります。

この他まだベスタロツチに對する非難は澤山あります、細部の種々の事柄に關してはベスタロツチ程、批評家の標的にされる人は尠いでありませう、けれども今更這麼ことを數へ立てるのは餘計な仕事です、それは今までに度々なされた仕事であります。彼の呼號、同時的の答に對して彼が過度の信頼を置いてゐたこと、一時に二つのことを教へやうとする企圖、課業の長さや何かに關する組織の缺乏、彼の學校に法則も秩序もなかつたこ

と——是等のこと及び其他のことは一般に誰でもが認めてベスタロッチの缺點とするところであり
ます。

ベスタロッチの追従者は尙この上に多くの缺點を暴露して居りますがこれはベスタロッチの關知するところではありません。

フレーベルの缺點に就てもかなり種々のことが言はれて居ります。

彼は要素を過重しました。彼は愚かしい象徵主義を結晶や植物や花の中に讀みました。しかし兒童の心の内には高い想像力のあることは疑ひのない事實であります、従つて象徵主義への多くの傾向を示して居ります。リヒテルは「兒童に取つては言ふ能はざることの象徵は言語よりもいゝのである」と言ひました。

フレーベルが彼の恩物の順序を規定する遣り方は殆んど錯誤無きことのかこつけか何かの如くに思はれるではないかといふ批評家があります、フ

レーベルの原理は殆んど變ふべからざるやうに確固たるものであります、しかしこれにも今日の進んだ心理學的智識から見ると改竄を要すべき點がないではありません。

それから又フレーベルが立方體に關して用ゐた言葉（安定の模型）及び球體に關して用ゐた言葉（運動性の模型）にはいくらかの誇張と神秘主義とがありはしまいかといふ批評家があります、私はフレーベルの如き偉大なる人に對して不敬の言葉を弄したくありません。彼の神秘主義は如何なる事實の立場よりも遙かに眞實でありませう、ブエウロウ夫人が「男子が、而かも子どもを持つたことのない男子が母親の感情を這麼に深く且つ親しく理解して居るといふのは殆んど奇蹟に類することです」と言つて居りますが私はたいこれだけでもう批評を中止しやうと思ひます。斯る人は婦人の生活に透入して行けると同じやうに深く兒童の生活にも透入して行けるに違ひありません。而

かも尙フレーベルの歡喜の多くはセンチメンタルな湧出よりも少許ばかり優^{まし}であるといふやうに考へさせられることが時折ないではありません、彼は生涯の大部分を婦人と共に暮しました。而して彼は婦人に代つて種々の告白を爲したのであります。

コーンソープ・パウエン氏がフレーベルの唱歌五六篇に就て批評して居ります、彼はフレーベルの唱歌に就て大體次ぎの如き缺點を數へ立て、居ります、教育上には比較的重要でない味覺と嗅覺とをあまりに多く扱ひすぎて居ること、暗黒の子供らしい恐怖を獎勵して居ること、或種の野性動物を憎んで居ること、唱歌に關聯する寓意の牽強附會であること、大體に於て詩的價值に乏しいこと等であります。

パウエン氏は更にフレーベルの唱歌にはキツカリとした順序がないと言つて居ります。一つの唱歌の中で先づ赤ン坊が抱かれて居るといふやうな

ことを唱つて、次ぎへ行くとその赤ン坊が忽ちに四才か五才位らしくなる、それから又二才に逆戻りをするといった調子なのであります。階段的發達を口にして居るフレーベルの唱歌に這麼缺點があるとは些か奇異の感じがいたします。

グラハム・ウオラス氏もフレーベルの唱歌のあるものを誹謗して居ります。

幼稚園の方法は非常に表出的であるために兒童の創造し得る「動原」^{モト}を刺戟しすぎるといふ批評をする人があります。

幼稚園に於ける小さなデリケートな課業は生活の荒い勞働の本當な又は十分な準備ではないと言ふ批評家があります。フレーベル學派の人々は直ちにこの批評を否認するであります、兒童が若し愉快な活動に慣らされたならば彼等は後年に至つて生活の戦ひに於てよく戦ふであります。兒童を早熟の大人にしてつてはいけません。

書方や讀書に關してもフレーベルは幼稚園を終

へたばかりの「リナ」が如何に是等の必要な學術を教へらるべきかといふ考察に多くの頁を割いたのであります、フレーベルの原理は「何事もその時機に於て行ふべきこと、決して大早計に爲さざること」であります。

幼稚園の保姆は兒童を遊ぶにも働くにも他人にたよる、獨創性と自發性のない人形として了ふといふ非難があります。しかしこの非難は悪い幼稚園には當嵌るかも知れませんが極力自發性の發揮に努めて居るフレーベルの理想から見れば氣もないことでもあります。

水田氏著『お話の研究』を讀みて

倉 橋 生

東京高等師範學校訓導水田光子氏の新著『お話の研究』は幼児教育上近來絶好の著述として、廣く家庭及び幼児教育者諸君におすゝめし度いと思ふ。

又フレーベルは兒童の遊戲から眞の自由を奪ふ、何故ならば彼の遊戲は技巧的であるからと。この非難に對しても前と同じ答をすればよろしいのであります。

幼稚園の兒童は落附きがない、言ふことをきかない、無性である、遊ぶことばかりを好む、又以上とは反對に幼稚園の兒童は質問をしすぎる、物を尋ねることをあまり好みすぎる。是等の非難に對しては殆んど答へることの必要を認めません。

(F.H. Hayward. The Educational Ideas of Pestalozzi and Froebel. Chapter III)

『お話』が幼児の爲に如何に幸福なる世界であり教育上如何に貴重なる材料であるかは、更めて説くまでもない。之れは古く／＼から世界のあらゆる國に於て行はれて來た、最も自然的にして最も

普遍的なる最古の幼児教育法の一つであるのみならず、近年に於て、更に新しい注意と研究とが喚び起されて更めて教育的價值と必要とが高唱せられて來た問題である。現に亞米利加に於ける此の方面の熱心は最も著しいものであつて、特に其の専門の雜誌さへ發刊せられて居る。我國に於ても識者の特に此の方面に意を用ゐる力を竭さるゝこと次第に尠くない。殊に實際的にお話の供給の豊富なることは、實に驚くべき程に盛であると言つてよい。しかも、『お話』そのものゝ理論的研究に至つては未だ甚だ乏しい。勿論極く専門的に其の研究をして居る人は無いではないが、一般的な研究者に便利なる著書の少ないことは、常に遺憾とする處であつた。そこで水田氏の此著が出たのである。實に多くの期待と要求とに適合する、歓迎すべき著述といはなければならない。

『お話』の論の中で、所謂舊式と新式といふ言葉が屢々用ゐられる。斯ういふ言葉を用ふるのは勿

論漠然として學問的ではないが、其の意味は詰りお話の教育價值、従つてお話に對する教育的要求を、狹義に解するか廣義に解するかといふことである。すなはち、昔の論では教育的に價值あるお話とは狭い意味、嚴格な意味の道德的倫理的なものに限られて居て、従つて、お話そのものゝ本質的價值が餘りに究屈に解釋せられ、又究屈に取扱はれて居たのである。然るに、近來に於ては『お話』の教育的本質が、すつと自由なものになつた。一口にいへば、必ずしも直接道德的な教訓を含まないでも、其の自然的な、子供に極く適當したる興味といふもののものに、非常に貴い價值があるとするのである。此の考へ方が更に歩を進めてはなまじ狹義な教訓的な意味などを含んで居ない。方が——居ない處に、お話の價值があるのだとさへ言はれるのである。

水田氏の執つた立場は、此の所謂新式な考へ方の中の穩和的ともいふべきものである。此の書の

緒論に於て、

『次に童話教育の唱導者達が、「お話」の價值を單に修身教育の上にのみ認めようとするのも、餘りに一面的に墮してゐると思ひます。私の考へではお話の使命は決して修身教育に局限されるものではないと思ひます。勿論お話が兒童の徳性の涵養に與つて力あることは、明白な事實でありますが、それと同時に趣味を啓發し怡悅を賦與する力の偉大なことも、否定し得ない事實であります。そして廣い意味、否、むしろ一層善い意味の教訓といふ立場から見れば、怡悅の賦與趣味の啓發は、徳性の涵養と相依り相俟つて、始めて完全な兒童の心の發達が期し得られると思ふのであります。それ故多くの人士が徳性の涵養といふ固くるしい方面のみに眼をつけて、怡悅とか趣味とか云ふ、ふわりとした、ゆとりのある光つた方面を閑却してゐることは私の第二に遺憾とするところであります。』

といはれて居るのは、實に著者の此の態度の最よく、言ひあらはされて居るものである。吾人は、特に、此の意味に於て、此書を獎め度いと思ふのである。即ち「お話」の細い部分的な研究的な知識に入る前に、先づ吾人の信ずる最も正當なる意味の「お話」觀の普及の爲に、此著述の廣く讀まるゝことを希望するのである。而して著者に對しても先づ此意味に於て其の勞を謝し度いと思ふのである。

次に水田氏の此の著書の優れたる點は、全體の考へ、全體の論のし方が、俗な言葉で言へば、如何にもよくこなれて居ることである。之れは著者の敬服すべき文章の力にもよることと思ふのであるが、全體の統一、部分の配列、材料の選擇等が實によくこなれて居る。そこに此書を読む時の非常な快感がある。又此の種の論述に、例話の引用は極めて困難なことであつて、例話に就て資料が少なければ少ないなりに、多ければ多いなりに、

其の適當なる撰擇は實に六かしいことである。しかるに此點に於ても、實に見事に成功せられて居る。中には外國の例話も用ゐられて居るが、我國の例話も古い材料新しい材料から自由に巧に執り來つて、それが實に適所適材の使ひ方がせられてある。そこで、吾人が此の著書を讀んで居る間に直覺的に感じた事は、著者の「お話」に關する研究が熱心なるのみならず其の潜心の必ず一朝一夕なことでないといふことである。吾人の寡聞なる著者の「お話」研究に就て、今まで少しも知ることが出来なかつたのであるが、此の書にあらはれたる處によれば、著者は必ず此問題の久しい研究者であるに相違ないことが信せられる。吾人は再び此の意味に於て、更に此の書を尊重し、又廣く奨め度いと思ふのである。すなはち、此の書は、「お話」に關する知識を與へる許りでなく、著者の態度を通して、「お話」の眞面目な興味と、本氣な研究の氣分とを讀者に與へるものであるからである。

而して吾人は、此の著述を敬重すること斯くの如くなるにつけて、著者に向つても更に一言の希望を述べ度いと思ふ。それは第一に、著者の「お

話」研究が將來、尙益々繼續せられて、愈々問題が擴大せられ、研究が深入りせられて、我國の「お話」研究を大成せられんことである。こんなことを言ふは却つて著者に對し禮を失することであり殊に所謂いはずもがなのことであるかとも思ふのであるが、吾人は著者に對しての個人的希望といふよりも、我國の「お話」研究といふ學問的、教育的事業そのものの爲に、此の希望を述べざるを得ないのである。且つ吾人平生の主張として、幼兒教育に關する研究は、婦人の研究事項として最も適當なるものであつて、將來我國の婦人諸君の知識的事業として、此の方面の問題を最もすゝめ度いと思つて居るのである。そして、此の方面の立派なる業績の一つでも多く、我國の婦人界から出づることを常に期待して居るのである。そこへ著者を得たのであから、吾人の此の著述を特に喜び迎ふるもの、決して所以なしとしないのである。

従つて又、未見の著者に向つて、更に進んで斯くの如き希望を述べ、大に將來に期待する所以なのである。(東京市京橋區銀座二丁目大日本圖書株式會社發行、定價金壹圓五拾錢)

箱庭

S K 生

○夏の子供の生活で、最も趣味多きものの一つは箱庭である。小は方數寸、大なるも方數尺の箱の中に自然の美景を縮めて、しかも其の風致美觀を活躍せしむるもの、斯くの如く興趣深きものはない。据ふる處の石は小なりと雖も山と同質のものである。植ふる處の草や木や小なりと雖も自然そのものである。木造紙製の組立玩具に比して、活ける興趣に富めることはいふまでもないのである。昔から今に至るまで、夏の子供の生活に廢ることなく續いて居るのみならず、近來更に益々盛に行はれ出したのも當然とすべきである。

○箱庭を幼稚園に用ふるには、二つの違つた目的に用ひられる。其の第一は幼兒の成遊具の一つとして用ふるので、つまり粘土細工の型製の興味と、積木の立體配列の興味と、圖畫の描出的興味とを併せた様なものとして、最も有益に用ひられる。但し餘りに具體的であるが爲に、普通の積木や粘土細工にのみ慣れて、極めて自由なる立體想

像に慣れないもの、又綜合統一の興味や能力の乏しいものには、適當なる指導を用ゐなければ直ぐには出來ない。故に、特に其の價值を認めた以上は其の指導法に就て研究する必要がある。それには何よりも先づ保姆が其の趣味を解しなければならぬ。

○第二の用ゐ方は、鑑賞遊具としてある。つまり立體の額であり、活きた置物である。此の場合幼兒の製作を其まゝ用ゐてもよいが、純鑑賞用としての爲には、矢張り保姆の手になつた、多少精巧に又美的なものでなければならぬ。而して、活きて居る處に價值があるのであるから、適宜に取り換へなければならぬ。

○幼稚園の生活は季節にあはせたい。夏季に於ける箱庭は此の目的にも大に適する。青い木、白い砂、洗はれた石、山や海や、瀧や川や、野や村や。保育室に涼しい風が吹いて來る。

*

*

*

*

*

雜 錄

○文部省保育講習會

文部省保育講習會につき六月二十日官報を以て左の通り發表せられました。

本年度に於て開催すべき幼稚園保姆講習會の要項左の如し

大正五年六月二十日

文部大臣法學博士 高 田 早 苗

學科目 保 育

會場 東京女子高等師範學校

會期 自八月一日至同十日

講師

東京女子高等師範學校教授 安井 てつ

東京女子高等師範學校教諭 竹島 茂 郎

東京女子高等師範學校講師 倉橋 惣三

講習員資格 幼稚園長及保姆

一、北海道廳及各府縣講習員の定員は三人とす

一、講習員は地方長官之を撰定す

一、地方長官は講習員を撰定したるときは本人の氏名、職名、講習を受くべき學科目を記載したる選定書を七月十五日までに文部省普通學務局に差出し講習員を開會前迄に講習會場に出頭せしむべし

一、前表記載の資格を有せざるものは講習員として選定することを得ず

一、地方長官は定員以外に於て豫備員を選定することを得

一、文部省に於て前項豫備員を許可したるときは其の旨地方長官に通知す

一、講習を終りたるときは講習員の出席を査案して證明書を授與す

講習要目

東京女子高等師範學校教授 安井 て つ

保育上特に研究を要すべき諸問題(四時)

東京女子高等師範學校教諭 竹島 茂 郎

幼児教育に必要な自然界(二十時)

一、總 論

二、植物界

(一) 植物と人生

(二) 幼児に興味ある植物及其の栽培法

三、動物界

(一) 動物と人生

(二) 幼児に興味ある動物及其の飼養法

四、礦物界

(一) 礦物と人生

(二) 幼児に興味ある礦物及物及其の取扱法

五、結 論

東京女子高等師範學校講師 倉橋 惣三

保育法原論(十六時)

一、幼稚園教育

(一) 幼児教育

(二) 幼稚園

(三) 幼稚園教育の内容

(四) 國民生活と幼稚園教育

二、保育法の理論的基礎

(一) 幼児期の特色

(二) 精神發達の原理

(三) 保育法の基礎としての教育學說

三、保育法原則

(一) 自發的なるべし

(二) 相互的なるべし

(三) 習慣的なるべし

(四) 具體的なるべし

四、保育の機能

(一) 生活、遊戲、作業

(二) 保育案及保育日程

(三) 保育と設備

(四) 保育用具

(五) 保育衛生

五、保育の手段

(一) 保育の手段の意義

(二) 音楽

(三) 動作遊戲

(四) 手技、圖畫

(五) 談話

(六) 實物

(七) 實際生活

六、幼児保育者

(一) 教育精神

(二) 幼児保育者

(三) 幼児保育者の修養

○フレーヘル會例会

フレーヘル會六月例会は六月十日午後二時より東京女子高等師範學校附屬幼稚園にて開催日本女子大學校所屬小學校主事河野清丸氏の『自由主義の誤解』と題する有益なる講演あり、甚だ盛會でありました。

羽仁とも子主幹

子供之友

本誌は十分教育的に編輯された子供雑誌で御座います。記事も挿畫も子供の喜ぶものばかりです。楽しんで讀む間に、頭腦をよくし感情を高尙にし、善良なる習慣を愛するやうになります。『子供之友』には、一つの非教育的なる挿畫も、一行の不注意なる文章もありません。『子供之友』は、家庭教育の最も有力なる補助機關であります。幼稚園及び小學校時代の御子様方のために、熱心によき讀物を求めて居らるる御家庭におすゝめ致します。

一定半分の税も十
冊錢年と六錢
價
婦人之人友社
東振替
京一六〇番
雜司ケ
谷番

日本幼本の一日

□倉橋惣三先生監修

本誌は、三歳から拾歳までの子供の爲め美しい繪と、面白い噺とを、教育的に組み合せた他に比類なき繪雜誌です。

本誌は、玩具とお噺しとの興味及び教育的價値を兼ねあはせたるもの、子供には何よりも喜ばれ、何よりもよき友達となります。

定價

壹冊拾錢 □半年 郵稅共六拾參錢
 郵稅壹錢 □壹年同 壹圓貳拾錢

婦人畫報
 少女畫報
 日本幼年

發行所

東京橋鍛冶橋外
 振替東京四九〇〇

東京社

顧問 高島平三郎先生

モドコ

日本一の繪雜誌

本誌の特色

- | | | | | |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 記事の面白いこと | 繪の美しいこと | 最も平易なこと | 最も教育的なこと | 最もまじめなこと |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

本誌は最も着實にして教育的幾多畫雜誌中獨自の地歩を占む。記事は全部片假名にて極めて平易。八九歳以下の子供の絶好伴侶なり。

發行所 東京市小石川區林町五十七

モドコ社

電話 番東 話替 町京 六二 番東 一七 八三 番番

定價一冊拾錢
郵稅五厘
六冊郵稅共
五拾八錢
十二冊郵稅
共壹圓拾錢
總て前金の
事

フレーベル會規則 (抄)

- 第一條 本會ハ幼兒保育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハフレーベル會ト稱シ東京ニ置ク
- 第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒保育ニ篤志ナルモノトス
- 第四條 會員ハ本會ノ經費トシテ一ヶ月金拾錢ヲ齎出スベシ
- 第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルモノハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルベシ
- 第六條 本會ノ目的ヲ達センガ爲ニ左ノ事業ヲ行フ
- 一、總會、毎年十月之ヲ開キ保育ニ關スル演說、談話、保育參考品幼兒成績物展覽、會務ノ報告等ヲナス
- 一、常會、毎年二月、六月、ノ第二土曜日之ヲ開キ保育ニ關スル演說、談話、協議、實驗等ヲナス
- 尙毎年四月廿一日特ニフレーベル紀念ノ爲メ會ヲ開ク
- 一、組合會、會員中特ニ或ル事項ヲ研究セントスルモノヲ以テ組織ス
- 但シ別ニ組合規約ヲ定メテ會長ノ承諾ヲ經ルモノトス
- 一、雜誌發行、毎月一回雜誌ヲ刊行シテ之ヲ會員ニ配布ス
- 一、前項ノ外本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

會長

中川謙二郎

會告

○本會事務所先般より東京女子高等師範學校附屬幼稚園内へ移轉致候處尙御承知漏も有之候様につき重ねて申上候

○會員諸君にて御轉居等の節は至急御一報願候

○萬一本誌不着等のこと有之候折は直に御一報煩し度候

○會費御未納は會計整理上甚だ困却致候に付確實に御納付下され度尙後萬一御不納久しきに亘り候場合ハ乍遺憾雜誌發送を停止可致候間左様御含み置き願候

フレーベル會

明治三十四年一月廿八日第三種郵便物認可(毎月一回五日發行)

婦人と子ども 第十六号 大正五年七月八日發行

印刷所

凸版印刷株式會社本所分工場